

2006年11月14日

株式会社ソフトフロント  
代表取締役社長 阪口 克彦  
(証券コード番号:2321)

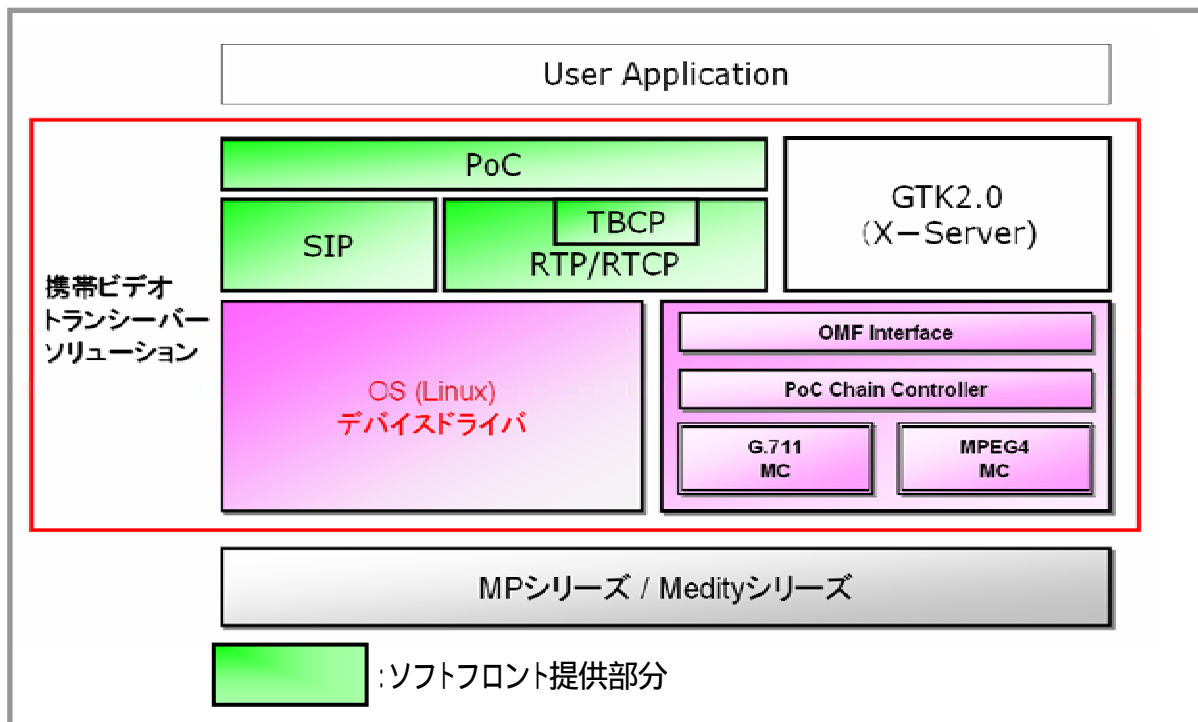
**ソフトフロントのSIP/PoC技術がNECエレクトロニクスの  
platformOVIAにおける携帯ビデオトランシーバーソリューションに採用  
～ 「Embedded Technology 2006」にてデモンストレーションを公開 ～**

株式会社ソフトフロント(本社:札幌市、代表取締役社長:阪口 克彦 以下、ソフトフロント)は、NEC エレクトロニクス株式会社(本社:神奈川県川崎市、代表取締役社長:中島 俊雄氏 以下、NEC エレクトロニクス)の半導体ソリューションプラットフォーム「platformOVIA」の携帯ビデオトランシーバーソリューション開発において、SIP(\*1)/PoC(\*2)技術を中心とした協力を行いました。このソリューションは、2006年11月15日(水)から17日(金)までパシフィック横浜で開催される「Embedded Technology 2006 (組込み総合技術展 2006)」のNEC エレクトロニクスブースにて、デモンストレーション展示されます。

このたび開発されました携帯ビデオトランシーバーソリューションは、platformOVIA とデジタル信号処理プロセッサ技術に、ソフトフロントの SIP/PoC 技術を統合することにより実現しました。ソフトフロントは、次世代携帯電話における重要なアプリケーションの一つと考えられる PoC 技術の研究開発を継続的に行っており、開発環境である PoC ライブラリの品質、相互接続性を常に高めています。また、ソフトフロントの PoC ライブラリは、世界的なモバイル・アプリケーションの標準化団体 OMA(\*3)の規格に準拠しているため、同様に OMA 規格に準拠する世界各国の通信事業者や、海外ベンダーの通信機器との相互接続性の高い端末開発が可能です。これらの点が今回の platformOVIA における携帯ビデオトランシーバーソリューションへの採用につながっています。

このソリューションを利用して開発されたアプリケーションは、複数の端末に対して音声とビデオを同時に、かつ一斉に送信することができるため、利用者は音声のみの通信と比べてよりリッチで迅速なコミュニケーションを行うことが可能です。このアプリケーションの想定活用例としては、個人ユーザーによる友人や家族間のコミュニケーションや、法人ユーザーによる一般オフィス、大規模商業施設や流通・配送センター、イベント会場など、一斉通信が必要となる場所での効率的な連絡手段としての利用が挙げられます。

今後、端末の通信速度や処理能力の向上により、携帯電話で利用できるビデオ通信サービスが本格化し、多様化する時代が到来すると考えられます。ソフトフロントは今後も次世代通信機器市場を中心に、革新的で真に顧客ニーズに合致した製品、ソリューション開発への技術提供を行ってまいります。

**【携帯 Video トランシーバーソリューション スタック図】**

**【携帯ビデオトランシーバーソリューション仕様】**
**・ビデオデコーダー仕様**

符号化方式	: MPEG4 Video シンプルプロファイル
画像サイズ	: QCIF
フレームレート	: 15fps (max)
ビデオビットレート	: 300Kbps (max)

**・スピーチデコーダー仕様**

符号化形式	: G.711
チャンネル数	: 1ch
スピーチビットレート	: 64Kbps
サンプリングレート	: 8KHz

**【Embedded Technology 2006(組込み総合技術展)展示概要】**

日程	: 2006年11月15日(水)～17日(金)
場所	: パシフィコ横浜
出展ブース	: NEC エレクトロニクス株式会社ブース
出展小間	: B-32
出展内容	: 「platformOVIA」における携帯ビデオトランシーバーソリューション

**用語説明**

(\*1) SIP (Session Initiation Protocol)

IP 電話、ビデオ会議などを実現する新しいプロトコル(RFC3261)。Web の技術として有名な HTTP と同様にテキストベースであり、テキストベースのためシンプルで拡張性が高いことから、IP 電話の標準的なプロトコルとして利用されている。最近では、その特徴を生かしてデジタル情報家電などへの搭載が注目されている。

(\*2) PoC (Push-To-Talk over Cellular)

モバイル・アプリケーション技術の標準化を推進する業界団体「OMA」(open mobile alliance)が、第3世代携帯電話の標準化組織「3GPP」と連携して標準化を進めている。携帯電話をトランシーバのように使用することを可能にし、ボタンに触るだけでコミュニケーションが実現。3GPP が「IMS」と呼ぶ携帯電話用マルチメディア・サービス・プラットフォームの一つのアプリケーションとして位置付けられている。

(\*3) OMA (Open Mobile Alliance)

世界各国の移動体通信関連企業から構成され、モバイル・アプリケーションの技術を規定する業界団体

記載されている会社名、製品名は一般に各社の商標または登録商標です。

掲載文中では、TM、(R)マークは原則として明記しておりません。

## 【プロフィール】

### 株式会社ソフトフロント

1997年設立のソフトウェア開発企業です。SIPとVoIPを核技術とし、業界から本分野の核技術の提供企業として注目されています。「技術を愛し、技術を提供することによって、社会変革の牽引役となり、豊かな社会を実現すること」を企業理念として、事業を展開しています。また、業界標準プロトコルになりつつあるSIPに早くから注力しており、様々な技術とノウハウを蓄積してまいりました。現在は、これまで培ってきたSIPとVoIPに関する技術やノウハウを多数のメーカーやシステム・インテグレーターに提供し、それらのパートナー企業を通じて当社技術の普及を図る「SIPパートナープログラム」事業に注力しています。さらに現在は、各種CPU/OSベンダーとの連携により、SIP開発環境の拡充を図っております。

URL: <http://www.softfront.co.jp>

## 【リリースに関するお問い合わせ先】

株式会社ソフトフロント

管理本部 広報担当 中村

電話: 03-3568-7007 FAX: 03-3568-7008

E-mail: [press@softfront.co.jp](mailto:press@softfront.co.jp)

## 【本製品に関するお問い合わせ先】

株式会社ソフトフロント

SPP事業本部 営業グループ

電話: 03-3568-7009 FAX: 03-3568-7008

URL: <http://www.softfront.co.jp/spp/enquiry.html>